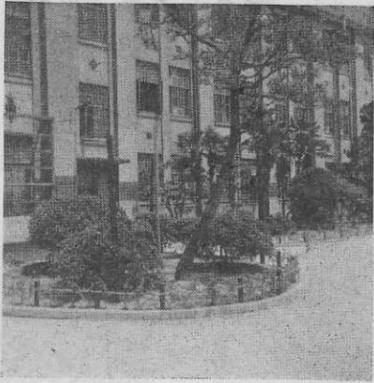


16 ここに思い出が

16回生も入学しては
やここに卒業を迎える
こととなった。いろん
な思い出を残して巣立
っていくわけだが、そ
の思い出を歌にたくし
てもらった。また、そ
れらの思い出につな

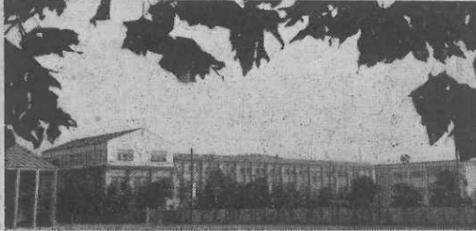
る校舎の様々の色模様
その歌と「校舎あれこ
れ」とで、思い出の一
部をここに刻んで、い
つまでも残してもらえ
たらと考える。なお歌
は希望者のみとなつて
しまったので、ここに
御了承願いたい。

もみじ咲き 正子
鹿のいる奈良 思い出す 道子
暮る朝の 残の少ない 制服よ (無精)
卒業や 重さかばんの だき心地 恵子
初恋は 実らぬものと 人は言っ 輝枝
八時半 これだけ足 速くなり 和子
未来への 夢とは言葉と 不安なり 和子
春の陽に 講義の声も 子守歌 和子



校内より西出入口を望む

あの人を H・K
見ればホッと 赤くなる 義子
仲間らで 歌った歌は カントウ節 敏子
バスを待ち 時刻むなと 八時半 静子
三学期 寂しさを 紙袋 節子
花咲きて 巣立つ校舎の 若つばめ 智子
それだけの 想いをこめて 巣立ちゆく



第一グラウンドより本館全景



冬枯れの中庭一角

いわし雲 順子
思い出秘めて 仰ぎ見る 美
青い芽に 白花つけし 母あへの

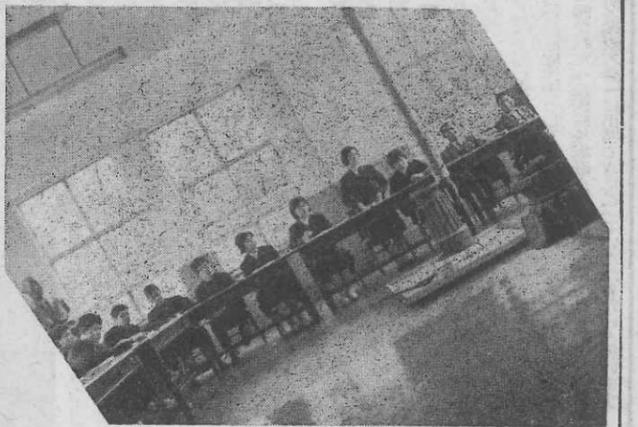


春桜の満開のころ

我が胸は 基子
希望と不安 つのりゆく 美代子
ベルが鳴る 教師来るのは いつのこと 伸子
寝ていても 飯食う時は 目をさまし Y・O
カッとして ちょっと忘れたる 新学期 N・T
卒業を 控えて悲し この胸の内 千尋
思い出は 秘密の場所に 友とあり 恵美子
若人よ うんと伸びよう 良き世代 敏子
朝ももの 枝に残れる 柿ひとつ

雨の日は 小夜子
明かりもなしに 本を見る 浩子
夜は明けぬ 今も 優子
寒い朝 寝床の中で 服を替る

実とって 憲子
落ちていくのは たまらぬ 洋子
桜庭に 吹く風寒し 冬の日よ 順子
いつの日か またたすね来ん この道を 美枝子
巣立つ行く 思い出多き 学舎を 温子
校庭の 木々も悲しく もつわれ 郁子
うららかな 目をさめたときは 卒業式 信子
カチャカチャと 弁当のふたあく 昼前かな 和子
別れの日 梅ほろびて 近づきぬ



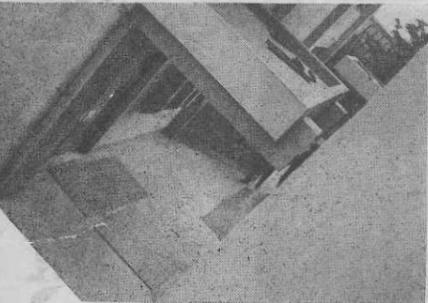
我々の原動力部 (会議風景)



ともに暴れ少し こだわった体育館



第二グラウンドより 本館 新館をのぞむ



よく通いましたね この道を



食堂 放課後でもごらんの人の列

教師の目 正子
ぬすみて居残る クラブの味 紀久子
学びの心 走って通った この一年 十代子
残り少ない ハッスルだ 登美子
いつまでも ファイトでいこう 若人よ 正子
嬉しくもあり 又悲し ONA
ああ阿倍野高や あべこやアベノヤ 庭の梅 孔子
今日もなぐ ふうふうはりの この廊下 孔子
図書室へ ストップ目あてに 入る人

課目讃歌
時間を出すにはどうするか
距離を測る速度で表わすと
わかっやいるげと遅刻する
いやな代敷やめちまえ
英 おいらは元々日本人 外国
言葉がわかるかい さっと
さっさとませませす いや
ないんべりっしやめち
まえ
光原氏の夜遊びは いみじ
うをかして いうけれど
おいらにやいみじうわか
らない いやな古文はやめち
まえ
社 世界の国の地図なんか 小
さい時かなおとくさ 今
さらそんなのはすかして
いやな英文やめちまえ
理 彼女の前では赤くなり先生
の前では青くなり リトマ
ス試験紙じゃないけれど
やなけ学やめちまえ 卒業生に贈った

文房具・事務用品・
紙製品 なんでもそろう
**大谷
文具店**
阿倍野高校グラウンド前
TEL (65) 8465

生徒募集
4月組ヨルヒル教員免許
証学割あり
財団法人 **ピジョン
洋裁学校**
校長 徳山 弘子
地下鉄、市バス「昭和町 100m
南海平野線「文の里」
TEL (62) 4307番

校 内 食 堂
**み
の
わ**
衛生的で、安くて、うまい
三拍子そろった。
めん類・ケーキ飲物なら

来る春にそなえての
各種スポーツ用品は
大阪スポーツ
上町線松虫駅前

